

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム こすもすの家

日付 平成19年2月16日
特定非営利活動法人
評価機関 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験9年

評価調査員 老人保健施設介護実務経験6年
居宅支援事業所介護支援専門員経験6年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

リビングルームに一歩足を踏み入ると、かすかに甘い香りが…。机の上には大皿の上にケーキの台が乗っている。そう言えば、今日は12月25日。クリスマスの日だ。生クリームを分厚く塗って、いちごやキーウイを手際良く飾る さん、「ケーキ作りが上手かったら、誰か嫁さんに貰ってくれるかな」と言うのと「誰が貰ってくれるか、こんな後家さんを」と、お隣さんが茶々を入れる。「しょうがない、ゴケサンスズで歌でも歌いながら作るか」と、皆で賑やかなケーキ作りとなる。楽しい仲間と馴染みの職員と暮らす利用者は、それぞれに自分らしさを発揮している。午後に行われたデイサービスの皆さんと二つのグループホーム合同のクリスマス会では、出し物に参加したり、立派な閉会の挨拶をする利用者もいた。この他にも、日常の暮らしの中で、「自分らしく生きて頂く為の支援」の様子が、あちこちで伺われ、素晴らしいホームと思った。

また、このホームの特徴の一つに、地域の人達との交流があげられる。コミュニティで芋煮会をしたり、案山子作りや祭り等で、また、ボランティアの人達や小学生の交流も多い。行事の時だけでなく、ホームからデイサービスセンターに仕事のように通う人もおり、ホーム外の人達との触れ合いも暮らしの幅を広げている。近くを散歩中にしばしば声をかけてもらったり、野菜を頂く等、この地域のホームになりつつある。長年医療機関で、地元の人達と深い繋がりがあったと言う地盤の上に、管理者の家族も一緒になって小規模多機能の拠点となり、地域社会の人達が笑顔で暮らせる生活をサポートしている。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

開設して3年半が経過した現在、今後利用者の状態がもっと重度化し、意識疎通も上手く出来なくなる状況も予測した記録、資料作りも考慮に入れておきたい。

現在計画中の「気付きノート」を職員間のコミュニケーションの材料の一つに加え、ケアカンファレンスにつないで欲しい。

家族会が出来たので、お楽しみ会や交流会に加えて幅を広げて欲しい。自主評価・外部評価の結果を話し合う等も良いのではないかと。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か</p> <p>「こんなに暑くて足も痛いのに何で私は歩いているんだろう？ 何も分かりません。どうしたんかいな？」</p> <p>とても暑い日、何回も外に出掛ける利用者のこんな言葉を大切に聞き取って、管理者は家族宛の「こすもす通信」に「短期記憶が消えて不安いっぱいになっているお年寄りに、出来る限り良い関わりを持って不安を取り除いて差し上げる暮らしを目指している」と書いてある。そして、「その目標や方針にご家族のご意見を」と続けている。</p> <p>こういった管理者の理念や姿勢を職員もよく理解し共有して、穏やかに齢を重ねていけるホームになっている。当日も、リビングルームに殆んどの人が集い賑やかにしているのに、「みんな、どこに行ってしまうのかな？ 誰もおらんようになってしまった」と車椅子でウロウロする さんに、どの職員も優しく語りかけ、その都度不安げな顔が消えていた。職員の笑顔という薬がよく利いているようだ。</p>		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か</p> <p>室内履きのまま行き来出来る第2ユニットや増築したデイサービスセンターが、生活の場や人との交流の輪を大きく広げている。「私もこのホームの住人の一人です」といった顔をしたブーさんを始め多勢のネコちゃん達も、癒しの場づくりをしてくれている。その証拠だろう。今日頂いたクリスマスカードに、赤い帽子をかぶって主人公の様に納まっている。笑いとユーモア、茶目気たっぷりの雰囲気があちこちに感じられて、心が和むホームである。</p>		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のベースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		

一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

「私達は過剰介護にならないよう気を付けています」と言う言葉通り、管理者・職員は出来る限り自分の事は自分でしてもらい、一人ひとりの力を最大限に発揮するよう声かけ、働きかけをしている。ぎりぎりまで待って、どうしても出来ない時だけ手助けしようとしている。本人の要望も可能な限り受け入れている。タバコを吸いたい さんの満足そうな顔を、職員の徹底した見守りの中で見る事が出来る。

利用者一人ひとりの経験や生活歴等、本人や家族から得られた情報や現状のトピックスを拾い集めて、何らかの形にして収集しておけば、今後のケアに役立つのではないだろうか。

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		

サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か

今春から始まっている運営推進会議は、よく活用できていると思う。利用者本人、家族らの質問に答えて、ホームの方針や理念も理解してもらえたり、日々の活動や暮らし方、認知症に対する理解を深める事にも貢献している。地域の人達の協力もよく得られているようだ。「認知症を患う人が特別な人ではない」と言う事が隔々まで浸透するには道は遠いかも知れないが、試行錯誤を繰り返すしかないと思う。こういった努力は、必ずサービスの質の向上につながっていくだろう。

ホーム内ではミーティング等で問題意識をしっかりと持ち、よく意見交換も出来ている。事故発生後の指導や利用者への関わり方、例えば「声かけはトーンを下げて」「出来る事はとんとんしてもらって下さい」等、管理者から指導があり、今のケアにつながっていると思う。